高等教育推進機構FD委員会　H26年度活動報告、H27年度活動計画

H26 度の活動報告

1. FD 委員会活動

(1) ピア授業参観

今年度も前期および後期にピア授業参観促進期間を設けた（参観件数０件）。
後期には、機構長教育奨励賞受賞者に対して授業公開をお願いし、３名の先生に「オススメ授業」として公開いただいたが、参観件数は０件であった。

(2) 機構 FD セミナーの開催

機構 FD 委員会主催で FD セミナー、ワークショップを以下の通り 2 回開催した。

・「より良い学びを促すシラバスの作成方法」　講師：佐藤 浩章氏（大阪大学）
　平成 26 年 7 月 4 日（金）　13 時 00 分～16 時 00 分
　参加者 49 名

・教養科目「自己の役割とキャリア」授業実践報告　講師：飯吉　弘子氏（大阪市立大学）
　平成 26 年 2 月 12 日（ 木 ）　15 時 30 分～17 時 00 分
　参加者 37 名

(3) 機構長教育奨励賞の授与

高等教育推進機構で開設している全科目を対象として、ポートフォリオ（授業ふり返り）データを基に、優れた授業を実践している(10 組)13 名の先生方を選出して機構長教育奨励賞を授与した。昨年度に引き続き、学生の学びと理解を促しているかどうかを判断材料に加えることにより、学生の満足度に偏らないような選考方法とした。
なお、通算３回受賞した先生には、特別表彰を行うとともに、今後の奨励賞選考対象から外すこととした。

(4) 授業時間外学習の増加について

学生調査データ、ポートフォリオデータの分析から、授業時間外学習時間を増やす必要性について話し合いを持った。さらに、各科目分野で話し合っている内容について報告を行なった。

2. 科目グループにおける活動

＜教養＞

教養教育の現状とその問題点を分析し、aktiv な学びを引き出すものへと改革していくための組織的な活動を進めてきた。とりわけ、教養科目グループの 6 人の教員が中心となって、教養科目「近代を問う」（水４後期、今年度のテーマは「デモクラシー」）を共同運営し、以下のことを実践してきた。

・担当教員が定期的に研究会やミーティング（授業準備会議、反省会など）を開催。
・担当教員全員が毎回の授業に出席（ピア授業参観）。
・15 回のうち 3 回はディスカッション（シンポジウム）形式の授業。ここで発言をするためには、能動的な授業時間外学習が必要となる。
・10 回程度のレポート提出。レポートのない回はミニッツペーパー。
・100 冊程度掲載の文献目録を配付。

・この授業での取り組みを個々の教員の科目の授業改善に活かしている。

＜英語＞

1. Development of a questionnaire for students designed to evaluate Academic English courses and promote evidence-based practice.
2. Administration of TOEIC testing of first year students and collection of data and monitoring of student performance.
3. Delivery and management of extracurricular classes in CALL (Computer Assisted Language Learning) to assist students undertaking English Proficiency tests.
4. Conducted information briefing sessions for Part-time Staff in April.
5. Met in December with Part-time Staff (separate meetings for Native English-speaking Teachers and Japanese Teachers of English) to exchange ideas and improve teaching practices through discussions about what is being taught in classes and how English is taught.
6. Promoted student participation in two English Language Study Abroad Courses at the University of California, Irvine and the School for English Studies, Folkestone, and developed Study Abroad Guides to help maximize students' overseas experience.
7. The development of a Seminar Course on Intercultural Communication for students who are planning to study abroad.
8. Delivery and management of extracurricular classes in English Conversation ("The English Café").
9. Encouraged peer observation through the creation of a positive atmosphere where teachers can share ideas.

＜初修外国語＞

（1）学習支援

・新入生に初修外国語の概要とカリキュラムを説明するためのパンフレットを作成した。［独仏中韓］
・後期の学期末に 1 年次生には 2 年次生向け中級クラスを紹介するビラを、2 年次生には 3 年次向けクラスを紹介するビラを配布し、初修外国語の継続学習を勧めた。［独仏中韓］
・海外語学研修について説明会を開催した。［仏・韓］
・一部のクラスで、以前初修外国語グループで作成し、現在もインターネット公開中のポッドキャスト教材（ダウンロードできるインターネット放送、音声や PDF を配信中）を使用して授業を実施した。［独］
・学生のフランス語によるアウトプットを促進するためにフリーペーパーを作成し、他のクラスのフランス語選択者や学外のフランス語関係者にも配布した。［仏］
・前年度に引き続き、短期留学に関する出版物プロジェクトを実施した。［仏］
・府大生向けの独自教材（音声ファイル付き）を授業において使用した。［中］
・授業支援システムを利用して自習用教材を配布した。［中］
・2 年次向けクラスで反転授業を試行した。［中］
・一部のクラスで iPad を利用した発音学習、学習成果をアウトプットするために iPad を用いた動画作成を行った。［中］

（2）FD に関する研究活動

・国内、国際フランス語教育学会また国際シンポジウムにおいて様々なテーマ（授業でのタブレットの利用・語学研修報告書の改善など）で発表を行った。（日本・韓国・フランス・

オランダ）[仏]
・国内学会の会誌に FD に関する論文が掲載された。[仏]

（3）教員研修
・機構 FD セミナー（「教養正課科目におけるキャリア教育実践を考える」）を聴講した。[仏中]
・JMOOC 公認プロバイダの一つ gacco で東京大学が提供するオンラインコース「インタラクティブ・ティーチング」（全 8 週、講師：栗田佳代子東京大学特任准教授ほか）を受講し、修了した。[中（個人）]
・熊本大学公開講座「インストラクショナルデザイン入門編大阪会場」（1 日間、講師：鈴木克明熊本大学教授ほか）を受講した。[中（個人）]

（4）その他
・機構 FD 委員会の求めに応じ、授業時間外学習を増やすために行っている授業実践についてまとめた。専任教員だけでなく、非常勤講師にも任意で回答を依頼し、複数の非常勤講師から報告をいただいた。[独仏中韓]

＜健康・スポーツ科学＞
健康・スポーツ科学概論、教養科目、教養展開科目の講義科目については、受講生が生涯にわたる健康に関する知識や実践力を獲得できるよう、各教員が個々の専門領域を中心として講義を行った。
健康・スポーツ科学演習科目は、C2 棟（体育館）の改修が完了し、質・量ともに充実した授業展開ができ、受講生からも高い評価を受けた。受講中の受傷や熱中症の発生も激減し、安全で快適な授業環境が提供できたと考えている。
　また、平成 26 年度機構プロジェクト型研究として『生涯の健康管理における身体運動データの活用（1）呼気ガス分析を用いて』と『同（２）身体活動量（心拍数、歩数など）を用いて』を連動して行った。自己の健康について科学的な手法で能動的に管理する意識と能力について理解を高めることができた。

＜理科＞
・SEL 教室：引き続き、接続教育教材の提供を行った。また、府立大学独自の教材を作成した。

・科目運営、成績評価：
　学類を分割し複数クラスを複数の教員が担当実施する科目について、担当教員間で情報を共有して授業を実施した。
　成績評価については、教員間で情報共有し協議しつつ評価を行ない評価の公平性の確保を計った。
　学生の授業外の学習時間について、教員間で現状の情報共有を行い、自主的・自律的な学習を促すための方策を検討した。

・学生実験：
　複数のテーマを同時に並行して実施する実験科目について、タブレット端末を用いた教材と実験結果の解析システムを授業中に提供した。
　新しい実験テーマを開発した。
　実験レポートの評価基準、プレゼンテーションの評価基準の検討を行った。

実験レポートや実験中の不正行為に関して、実験のオリエンテーションに加えて、実験実施中にも機会をとらえて倫理教育を行った。

＜数学＞
・専門基礎科目ミーティングを実施した。授業の進め方、成績評価の仕方、試験内容などについて話し合った。
・例年通り数学質問受付室を設けた。
・工学域機械系学類と機械系向けの数学教育についての意見交換ミーティングを行った。(2014 年 4 月)
・現代システム科学域マネジメント学類と基礎数学の内容見直しについての意見交換ミーティングを行った。(2014 年 12 月)
・新学習指導要領で数学を学んだ平成 27 年度以後の新入生に対する数学教育に向けて基本事項を教員同士で確認した。
・学生の理解の定着・授業外学習時間増加等を目標に webMathematica, Moodle/STACK を利用したドリル・講義課題を講義において課した。
・Moodle/STACK のマニュアルを作成した。

＜情報＞
・H26 年 4 月からの情報教育システム更新に伴い、情報科目担当者および担当 TA に対して、新システムの説明会を実施した。
・「情報基礎」担当者による、講義の進め方、評価方法等について、上記説明会およびメーリングリストにて話し合い、周知徹底を行った。
・「情報基礎質問受付箱」を web ページに掲載し、「情報基礎」担当者のオフィスアワーを公開した。

H27 年度の活動計画

1. FD 委員会活動

(1) ピア授業参観
今年度も、ピア授業参観の促進期間を設け、教員が参観しやすい環境を整えていく。機構長奨励賞受賞者に授業公開をお願いし、オススメ授業として授業参観を呼びかける。

(2) 機構 FD セミナーの開催
今年度も 2 回程度、セミナー、ワークショップを開催する予定である。

(3) 機構長教育奨励賞の授与
機構長教育奨励賞の選考を行う。

(4) 授業時間外学習の増加について
学生調査データ、ポートフォリオデータの分析を行い、授業時間外学習時間を増やすための方策について検討を行う。さらに、学域制 4 年目となるので、教育活動と学習状況を点検し、課題の抽出、対策の検討を行っていく。

2. 科目グループにおける活動

＜教養＞

26 年度までの FD 活動を継続しつつ、さらなる深化・拡大を目指す。特に、学生の読書量の減少傾向が続いており、また読書の中身（質）にも大いに問題がある。教養科目の授業時間外学習を質・量ともに高めるための支援のあり方について、さらに検討を重ねる。

＜英語＞

1. Implementing TOEIC testing for first year students; collecting data and monitoring student performance.
2. Analysis of data from a questionnaire students completed in January 2015 which was designed to evaluate Academic English Courses.
3. Delivery and managing of extracurricular classes in CALL (Computer Assisted Language Learning) to assist students undertaking English Proficiency tests.
4. Scheduling of information briefing/sharing sessions for Part-time Staff in March, April and December to improve teaching practice.
5. Promoting student participation in two English Language Study Abroad Courses, and further work on the Study Abroad Guide and research into maximizing the experience overseas for students participating in these programmes.

＜初修外国語＞

・新入生に初修外国語の概要とカリキュラムを説明するためのパンフレットを作成する。［独仏中韓］。
・海外語学研修に関する説明会を開催する。［仏・韓］
・学習・教育支援サイト、授業支援システムを活用した学習支援を行う。［独・仏・中］
・FD 研修に積極的に参加し、知見を深める。［独］
・短期留学に関する出版物プロジェクトを継続する。［仏］
・平成 26 年度に引き続き、学生のフランス語によるフリーペーパーを作成する活動を行い、他のクラスのフランス語選択者や学外のフランス語関係者に配布する。［仏］
・フランス語教育学会（秋季大会）での発表、関西フランス語教育研究会での実践報告、または教育方法論に関する研究について発表を行う。［仏］
・独自教材を作成し、授業において使用する。［中］。
・平成 26 年度に引き続き、個人研究として電子書籍による教材の開発を行い、授業においてタブレット端末を用いて試用する。［中］

＜健康・スポーツ科学＞

1）平成 26 年度までの FD 活動を継続するとともに、FD セミナーなどへの積極的な参加により、FD に対する意識づけとさらなる拡充を目指す。
2）これまで実施してきた機構プロジェクト型研究の成果を各授業に適用することで、学生の知的好奇心の充足を図り、さらに魅力ある授業の展開を目指す。
3）教養科目、演習科目等における「学生の授業振り返り（授業アンケート）」の活用や、ピア授業参観の実施など通して、双方型授業の展開と PDCA による継続的改善を運用していく。
4）Ｃ2 棟の改修に伴い、さらなる授業内容の精選により、学生満足度の高い効果的な授業の展開を行う。

＜理科＞

・SEL 教室：引き続き、前年度までの接続教育教材に加えて、昨年度に府立大学独自に作成した教材を提供する。

・科目運営、成績評価：
　引き続き、学類を分割し複数のクラスで複数の教員が担当実施する科目について、担ｒ棟教員間で情報を共有して授業を実施する。
　成績評価について教員間で情報を共有し、協議しつつ成績評価を行ない評価の公平性を確保する。
　学生の自主的・自律的な学習を促す取り組みをさらに進める。

・学生実験：
　引き続き、複数のテーマを同時に並行して実施する実験科目について、タブレット端末で提供する教材開発および、解析システム等の開発を行い教育効果を高める。
　前年度に開発した実験テーマを実施し、評価、改善を行う。
　実験レポートの評価基準、プレゼンテーションの評価基準の検討をさらに進める。

＜数学＞
・専門基礎科目ミーティングを実施し、授業の進め方、成績評価の仕方、試験内容などについて話し合う。
・数学質問受付室を設ける。
・微積分学の演習書の執筆に向けて問題の収集および選定などの準備作業をする。

＜情報＞
・H27 年度に新たに「情報基礎」「プログラミング入門」の担当者になる教員向けに、情報教育システムの利用方法や注意点に関する説明会を実施する。
・事務手続きに関する事項だけでなく、講義の進め方等に関する事項も情報共有するため、TA に対する説明会を実施する。
・「情報基礎質問箱」web ページを担当者変更に対応して更新する。
・H26 年度に情報教育システムが更新され、学生が使用する OS やアプリケーションソフトも新しくなったため、H26 年度および H27 年度に新たに蓄積される受講状況のデータに基づいた分析を行う。